

番 号	57	区 分	町指定文化財
種 別	史跡	所 有 者	関西電力株式会社
名 称	与川渡（よがわど）の石地藏		
指定年月日	平成14年12月26日		
所 在 地	南木曾町読書（与川渡）		

概 要

この石地藏は、天保15年（1844）5月27日（陽暦では7月12日）の夜に発生した蛇抜け災害によって犠牲になった人々を弔うために建立されたものである。当時与川山では御用材の伐採が尾張藩によって行われており、与川山本会所が設けられ多くの杣や日用が伐木運材に従事していた。蛇抜けによって全壊した飯場には5組112名の杣や日用が寝泊りしていたが、内99名が死亡、7名が重軽傷で、無事だったのはわずか6名であった。

死傷者数の国別は、信濃…69名、美濃…26名、飛騨…3名、不明…8名であった。村別に見ると妻籠…24名、上松…23名、加子母…13名などとなっている。尾張藩上松材木役場では犠牲者の菩提を弔うために66両2朱と銭350文の費用で石地藏を建立した。開眼供養は弘化2年（1845）2月26、27日に行われ、21ヶ寺の僧侶によって執り行われた。

このように弘化2年に建立された与川渡の石地藏は、わが町の災害史上まれに見る大惨事を具現している石造物としてその文化財的価値は高い。また石地藏の向かいには60年忌にあたる明治37年（1904）建立の供養塔も現存している。

